

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 1階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成31年2月26日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節ごとの行事を設定し、室内イベント、外出を楽しんで頂けるよう努めており、今年度は、新卒スタッフの企画による行事も皆様に楽しんで頂きました。月に一度来所して下さるボランティアさんは15年近く継続して下さり、傾聴ボランティアさんも月に2回来所され入居者様も毎月楽しみにされております。日常生活では、張り合いのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの力を活かした役割を持って頂けるよう努めております。また、入居者様の健康管理にも力を入れており、毎食、食事量、

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から16年目となり実りのときを迎えつつある事業所です。介護度4の利用者にも「入居時は歩いていたので」と2人介助でトイレでの自立を慣らし、車いすですてーブ留めオムツの人が今ではつたい歩きができるようになった例をはじめ、「これまで通りに」との想いを実現する職員の力は夜間100回余のトイレ使用にもねばり強く対応しています。本年新採者2名の活躍も目覚ましく、「何をしたら飲むだろうか」に向き合い2人羽織の演芸披露でフロアを沸かせた日もあったほか、野菜の生育を観察したり水やりをすることで外気浴や気分転換が叶い、土いじりの利用者の手際の良さにあらためてその人の歴史を見つめることができた一年でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同がその理念を共有し、利用者様の生き生きとした表情が見受けられる場面を設定できるよう努め、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	朝の申し送りで唱和して「生き生き生きる」ことを噛みしめ、今日一日が始まるというのが日乃出町のルーチンワークとなり、自然な形で浸透が図られています。特にレクリエーションは事業所の十八番で、その充実さは掲示作品にも十二分に現れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんど焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	夏の花火大会開催では「近隣の迷惑になっては…」と挨拶に廻ったり、防災訓練には賞味期限が近い備蓄を供出したりと、地域とより良い関係を築く努力がみられます。高校の福祉科の生徒を2名ずつ5日間、中学校の福祉体験は4名2日間受入れ、学校教育にも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員、御家族様等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。	議場では町内会長や民生委員が貴重な地域情報を随時入れてくださり、助けられています。また面会に訪れる家族とは常にはパーソナルな会話となり、なかなか事業所の取組みを話せないため、運営推進会議は家族へのソーシャルな発信場所として活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して質問や意見交換をしている。	地域包括支援センターからは運営推進会議に毎回出席が得られ、市役所保険課が欠席の場合は議事録を届けて、事業所の運営を理解してもらえるよう努めています。介護相談員は月1回の来訪があり、帰り際には活動報告書を置いていってくださいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が定例会時に年2回の「身体拘束・虐待防止」の勉強会に参加し、事例を用い職員間で意見交換しながら身体拘束をしないケアについて学び、理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	本年の法改正に伴いマニュアル・指針を整備のうえ身体拘束廃止委員会を設置し、委員会運営もすでに4回を終えています。年2回の研修会や新入社員への教育は以前から法人研修に位置付けられており、今後はパートタイマー職採用時の教育に不十分のないよう取組むこととしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待に関しての勉強会に参加し、基礎研修の内容にも高齢者虐待防止法が盛り込まれており、虐待の定義についても理解し、虐待防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	事業所の便り『笑顔通信』は支払い者とキーパーソンが異なる場合には其々に送付して、現在の利用者への認識に大きな違いが出ないように配慮しています。「家族の御意向が一番」「100%応える」という法人の方針は職員共通のものとなり、何かにつけ言葉に出ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、定例会時等に提案できるよう努めている。	定例会を月1回実施するも会議の時間だけでは十分ではなく、職員は出勤開ロ一番に「あれが」「これが」と言い出すほど、意見の放出が豊富です。管理者は指示を控え支持することを増やして、「全員リーダー」「ボトムアップ」「皆で決める」をモットーとしています。	フラットで風通しのよい職場で皆働きやすそうですが、中には組織の上下関係を外れた振る舞いの職員もいますので、一度職場のマナーについて振り返ることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	編み物が得意な人は福祉展に並ぶ自分の作品を思い描いて、職員に「〇〇色が欲しい」と糸の購入依頼をしていて、今はマフラーに熱をあげています。法事や正月には自宅に戻る人もおり、家族以外では友人の面会がある人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	開設以来(15年)の利用者2名、職員1名もいて家族的な関係が滲むやりとりもあり、利用者も安心なかりビングでポロリと本音が零れています。「出かけたいなあ」との言葉を拾って、気温が少し上がれば駐車場でボール遊びをするなど、実践につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議・カンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、モニタリング実施。本人の意向を随時確認、家族の要望を取り入れ、各関係者と連携を図りながら介護計画を作成している。	毎日の申し送り、モニタリングシート、カンファレンス、支援経過シート等、情報集積のツールや機会を持ち、「24時間、夜間も把握しなくては」と介護支援専門員が夜勤に月3回入っていて、個別性が浮き立つような介護計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	1名を除き、他17名が協力医に変更していません。医師のところから訪問看護師が週2回来所して健康状態全般をみて早期発見につなげているためか、開所からの15年の利用者が2名いて、入院しても復帰して事業所で以前の様な生活ができるようになる人が少なくありません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、訪問時に相談したり、緊急を要する場合は即連絡し、状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	此処2年では2名のお見送りをおこなっていません。協力医や訪問看護師の支援・協力もバックボーンとなり、特段困ることもなく完遂していて、看取りカンファレンスの聞き取りでは涙ぐみながらも「やり遂げられてよかった」との言葉が職員からでています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。	防災訓練は年2回夜間想定で「エレベーターが使えない」等実践的におこない、特に夜勤をおこなう職員、新採者には参加してもらえるようシフトに配慮しています。通報訓練では消防署の協力を得ていますが、立ち合い指導は此処2年ありません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に寄り添いその場面に応じた言葉掛けをするよう心掛けている。	「パット交換では新聞紙でくるんでわからないように」「ドアを開けるのはノックしてから」等にも留意するほか、「名字にさん付」「同じ名字なら、どちらか一方は名前でさん付け」は徹底して遵守しています。接遇の外部研修に3名が手を挙げる等、取組み意識が個々に向上しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人の会話や行動の中で、利用者の希望や思いを感じ読み取り、できる限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が一日にやりたい事を自由に声掛けしたり行動を読み取り、可能な限り自由に行って頂けるような環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に髪の設定を行っている。訪問美容の提供や職員によるカットをしており利用者の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事のお楽しみ献立があり、利用者の好みを考え、喜んで頂けるような献立を調理する人が考えている。食前の準備、片付けはできることを手伝って頂き、職員と食事を共にし利用者との時間を共有している。	本部の管理栄養士がたたき献立に基づき、食料業者に発注し、職員が手作りしています。検食簿にはあまり記述がありません。「いいこと一つ」「改善を一つ」は必ず記す、といった決め事で意見の掘り起こしが叶うことを期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が、献立表を確認し、メニューの見直しを行っている。利用者一人一人に合わせた食事形態で提供しており、一日の食事量、水分摂取は生活日誌に記入し、利用者の状態を把握する為の目安となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声掛けにて行って頂き、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。希望により週に一度、訪問歯科を受診する利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導をしたり、本人の訴えによりトイレ誘導を行っている。オムツやパットの使用枚数を少しでも減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。	病院から戻ってきて車いすでテーブル留め、オムツの人が、リハビリとなってつたい歩きができ、二人対応から一人対応へ向上した例や、介護度4で立位が保てない状態でも二人介助でトイレでの排泄が継続できていたり、「これまで通りに」との想いを実現する職員の力が光っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外に一日、二回の水分摂取を行っており、全量摂取して頂けるよう声掛けをしている。水分をなかなか摂取して頂けない利用者にはお茶以外のもので提供している。毎朝ヨーグルトを提供し、運動不足からくる便秘予防には体操への参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴出来るようにしている。また入浴剤を使用した湯温を一人一人の好みに合わせ入浴を楽しみやすい環境作りを努めている。	週2回を目安としてお風呂に入ってもらっていますが、汚染などには臨機応変に対応しています。重度化するとシャワー浴と足浴対応となり、現在5名がその対象です。拒否のある人の乱暴には難儀するものの、最近はキーワードを発見し、先月は2回入ってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や体調を考慮し、日中、臥床時間を設けたり、レクリエーション等で活動的に過ごして頂いたり、各利用者に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は、申し送り、経過記録に記入し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせて洗濯物たたみ、食事の準備、片付けなどの役割を持って頂いている。個々の時間やレクリエーションの時間において楽しみをもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や利用者の体調に合わせ、出来るだけ散歩に出掛けられるよう心掛けている。	時節のいいときは外出し、寒いとき暑いときは室内行事として毎月1回のアクティビティがあります。外出は担当者があらかじめ検討し、『三津シーパラダイス』『歴史民俗資料館』『かくや姫ミュージアム』『スイーツを食べに行こう』などへのお出かけが実現しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理できる方がいないので金銭を所持している方はいないが、今後、自己管理できる方が入居してきた場合は、本人の希望で使えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じ使用して頂けるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームの窓際の光の入り方により、利用者に不快感を与えない様にカーテンの開閉を心掛け、又、温度、湿度の確認を行い居心地の良い環境作りをしている。日中、臥床して過ごしている時間が長い利用者の居室は光度により、照明の点灯にも心掛けている。	2階ユニットの壁には折り紙、紙粘土、即席麺のカップや牛乳パック、毛糸等多様な材料をつかったレクリエーション作品が連なり、展示会のように見ごたえがあります。トイレにも空気清浄機が設置され、掃除もルールに基づき毎日おこなって清潔です。	全体に整ってはいますが、1階と2階の清掃状況には多少差を感ずるので、原因と対策について職員の話し合いがあることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビ観たり、自席でくつろいだり、談話されたりし、レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり体操等を皆で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参して頂き、利用者の好みに合わせている。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えたり物の整理をしている。	つたい歩きの補完としてベッドをドアに近づけて動線を短くした例や、机をいくつかおいて支えとなる場所を増やしたり工夫が居室にみられます。退院で戻ってきて「歩けないけど、立ってしまう」というリスク回避から、家族の同意を得て居室交換したこともあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を確保し、出来るだけ安全に歩行できるよう配慮し、常に確認を行っている。居室内の環境も利用者の状態に応じ、職員と話し合い変更したりしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 2階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成31年2月26日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2272300969-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節ごとの行事を設定し、室内イベント、外出を楽しんで頂けるよう努めており、今年度は、新卒スタッフの企画による行事も皆様に楽しんで頂きました。月に一度来所して下さるボランティアさんは15年近く継続して下さり、傾聴ボランティアさんも月に2回来所され入居者様も毎月楽しみにされております。日常生活では、張り合いのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの力を活かした役割を持って頂けるよう努めております。また、入居者様の健康管理にも力を入れており、毎食、食事量、

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から16年目となり実りのときを迎えつつある事業所です。介護度4の利用者にも「入居時は歩いていたので」と2人介助でトイレでの自立を慣行し、車いすですてーブ留めオムツの人が今ではつたい歩きができるようになった例をはじめ、「これまで通りに」との想いを実現する職員の力は夜間100回余のトイレ使用にもねばり強く対応しています。本年新採者2名の活躍も目覚ましく、「何をしたら飲むだろうか」に向き合い2人羽織の演芸披露でフロアを沸かせた日もあったほか、野菜の生育を観察したり水やりをすることで外気浴や気分転換が叶い、土いじりの利用者の手際の良さにあらためてその人の歴史を見つめることができた一年でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同がその理念を共有し、利用者様の生き生きとした表情が見受けられる場面を設定できるよう努め、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんど焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員、御家族様等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して質問や意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が定例会時に年2回の「身体拘束・虐待防止」の勉強会に参加し、事例を用い職員間で意見交換しながら身体拘束をしないケアについて学び、理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待に関しての勉強会に参加し、基礎研修の内容にも高齢者虐待防止法が盛り込まれており、虐待の定義についても理解し、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、定例会時等に提案できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしでこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思い希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議・カンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、モニタリング実施。本人の意向を随時確認、家族の要望を取り入れ、各関係者と連携を図りながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、訪問時に相談したり、緊急を要する場合は即連絡し、状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に寄り添いその場面に応じた言葉掛けをするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人の会話や行動の中で、利用者の希望や思いを感じ読み取り、できる限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が一日にやりたい事を自由に声掛けしたり行動を読み取り、可能な限り自由に行って頂けるような環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に髪の設定を行っている。訪問美容の提供や職員によるカットをしており利用者の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事のお楽しみ献立があり、利用者の好みを考え、喜んで頂けるような献立を調理する人が考えている。食前の準備、片付けはできることを手伝って頂き、職員と食事を共にし利用者との時間を共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が、献立表を確認し、メニューの見直しを行っている。利用者一人一人に合わせた食事形態で提供しており、一日の食事量、水分摂取は生活日誌に記入し、利用者の状態を把握する為の目安となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声掛けにて行って頂き、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。希望により週に一度、訪問歯科を受診する利用者もいる。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導をしたり、本人の訴えによりトイレ誘導を行っている。オムツやパットの使用枚数を少しでも減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外に一日、二回の水分摂取を行っており、全量摂取して頂けるよう声掛けをしている。水分をなかなか摂取して頂けない利用者にはお茶以外のもので提供している。毎朝ヨーグルトを提供し、運動不足からくる便秘予防には体操への参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴出来るようにしている。また入浴剤を使用した湯温を一人一人の好みに合わせ入浴を楽しみやすい環境作りに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や体調を考慮し、日中、臥床時間を設けたり、レクリエーション等で活動的に過ごして頂いたり、各利用者に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は、申し送り、経過記録に記入し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせて洗濯物たたみ、食事の準備、片付けなどの役割を持って頂いている。個々の時間やレクリエーションの時間において楽しみをもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や利用者の体調に合わせ、出来るだけ散歩に出掛けられるよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理できる方がいないので金銭を所持している方はいないが、今後、自己管理できる方が入居してきた場合は、本人の希望で使えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じ使用して頂けるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームの窓際の光の入り方により、利用者に不快感を与えない様にカーテンの開閉を心掛け、又、温度、湿度の確認を行い居心地の良い環境作りをしている。日中、臥床して過ごしている時間が長い利用者の居室は光度により、照明の点灯にも心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビ観たり、自席でくつろいだり、談話されたりし、レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり体操等を皆で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参して頂き、利用者の好みに合わせている。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えたり物の整理をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を確保し、出来るだけ安全に歩行できるよう配慮し、常に確認を行っている。居室内の環境も利用者の状態に応じ、職員と話し合い変更したりしている。		